

『私のふるさと 水郷 松江』

私のふるさは島根県松江市で県庁の所在地でもあります。昭和16年、私が小学校3年生の12月に戦争が始まり、「欲しがりません 勝つまでは」のような雰囲気の中となり、日常の生活は厳しいものがありました。

昭和20年3月松江市立雑賀国民学校を卒業しました。4月には松江城の北に位置する松江中学に入学したものの戦局はだんだんと険しくなるばかり。学校らしい授業はほとんどありませんでした。山中に軍の秘密壕を築くための土木工事や空爆による市街火災の広がりを最小限に止めるため密集している家屋の間引き作業にも従事しました。当時、軍の命令は絶対的で避けて通ることは出来ませんでした。

戦後は徐々に松江の街も明るさを取り戻し、現在のような国際文化・観光都市になって行きました。

市街の東側には中海がひらけ、西側には宍道湖が広がっています。これらの中海と宍道湖は大橋川でつながっています。これら大橋川を始め天神川や松江城をめぐる堀川が市内をゆっくりと流れ、穏やかで落ち着いた風情のある街並みで水郷として発展してきました。



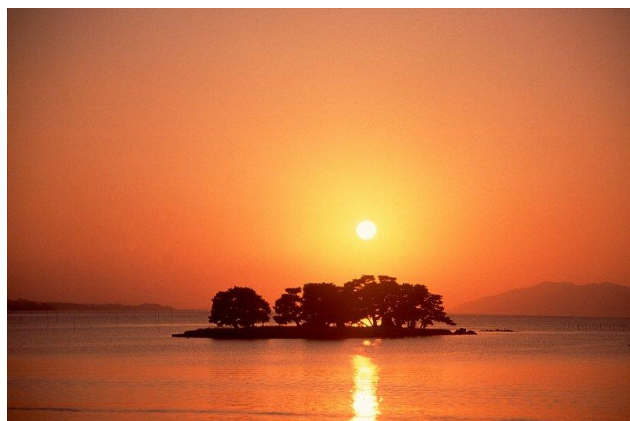
宍道湖と中海に挟まれた松江市



松江城 天守閣

松江のシンボルである松江城は昨年、国宝に指定されました。又の名を千鳥城とも呼ばれて、5層よりなる天守閣からは周囲の素晴らしい風景が見渡せ、多くの観光客が四季折々訪れています。

宍道湖は真水に海水が入り混じった汽水湖で、このため「しらうお」、「あまさぎ（わかさぎ）」、「しじみ」などの魚介類に恵まれています。これらを食材とした郷土料理は珍しく味わい深いものがあります。宍道湖の沈む夕日の光景は日本有数の素晴らしい眺めです。



嫁ヶ島に沈む夕日

また日が暮れてからの漁火も格別の情緒があります。
湖上に浮かぶ嫁ヶ島は箱庭のような小さな島ですが、湖岸からのながめは美しい絵のようです。岸のほとりに立つ島根県立美術館では有名な絵画や彫刻など見応えのある美術品が鑑賞できるので市民の憩いの場所となっています。



島根県立美術館の展望テラスからの宍道湖の眺め

中海は弓ヶ浜や島根半島によって囲まれ、日本海とつながっている内海で、ここに浮かぶ大根島は島根の県の花となっている牡丹の栽培が盛んなことで知られています。昔の実家の庭先にも大きな牡丹の花が咲いていました。

島根半島を北へ向かって横断山越えするとそこは日本海。沿岸には海水浴場、キャンプ場や漁港などがひらけ大小の岩礁が入り乱れ厳しい自然ととけ合っています。



大根島の牡丹園

ふるさとを離れて60余年になります。遠くの山々の稜線、湖水の香り、城山の大きな石垣なども脳裏に深く刻まれています。

平成28年 2月

藤田 よしひさ 芳壽



中海に飛来した渡り鳥